

解答

問 1	①	ウ
問 2	A	ア
問 3	イ	B
問 4	ウ	オ
問 5	(最初) とりあ	C
問 6	I	ウ
問 7	II	
問 8	III	
問 9	相手の言動	
問 10	イ	
問 11	イ	

問 1	a
問 2	イ
問 3	b
問 4	ウ
問 5	イ
問 6	エ
問 7	イ
問 8	ウ
問 9	エ
問 10	ウ
問 11	イ

解説

- 問 1 出典は、北原保雄「続弾！ 問題な日本語」
- 問 2 まず傍線部中の指示語「このような効果」の内容を読み取りましょう。「担当者も替わりまして…」とするこ
とで「現時点の分析で考えられる理由を挙げたというニュアンス」が生じるという効果があります。そしてこの効
果は、「最初に出されるものは、現時点で思いついたものであるとも、最も重要であると思なされたものであると
も解釈」できるとあります（↓ウ）。
- アは、「詳細に説明することができる」のは、「くで」という言い方をした効果とは言えません。イは、「これか
ら詳しい分析や的確な理由を追求していくことを相手に伝えて」という部分が言いすぎです。本文には「より詳細
な分析が出たり、もっと的確な理由が見いだせたら、撤回することもやぶさかでない」とあるにとどまり、常によ
り詳しく分析する意図を表しているわけではないことに注意しましょう。
- 問 9 冒頭の質問に対する筆者の考えを読み取ります。最後の段落に注目すると、「くし」の理由の用法について、「さ
まざまま含みをもたらし、相手への思いやりの効果も出せます」と、その効用を認めながらも、「しかし一方でく
思いつきを述べているのではないかと、優柔不断な態度であると見なされたり」といった誤解の危険性も指摘し
ています（↓イ）。ウは「人と人との関係をよりよくする言葉」という部分が言いすぎです。

- 問 2 出典は、木内昇「染井の桜」
- 問 2 この言葉は「朝顔や菊といった多くの職人が工夫を凝らしてきた筋のものには目もくれず、桜ばかりにこだわつ
た」理由として話されています。徳造はなぜ、一般的な植物ではなく、自分独自のものにこだわったのでしょうか。
さらにさかのぼると「これまで誰も造ったことがないような変わり咲きを生み出すこと」に「最も精を出した」こ
とがわかります。ここから、徳造の気持ちを読み取りましょう。「庭」ではなく「景色」を造りたいという言葉に

は、いままでにないものを造りたいという思いが込められています(↓イ)。

問4

仲間「変わり咲きは掛け合わせをして兄が造るんだから、『めっける』じゃあねえだろう」と笑います。しかし、徳造は「もともと天然自然のものはなから造るなんてできない。こいつらの出方を見て、いい姿をめっける」と述べて、「めっける」で正しいのだと言っています。桜の品種改良をするときには「掛け合わせ」を行うわけですが、思い通りに木を造ることはできません。人間にできるのは掛け合わせた木がどのように生長するかを観察することだけだという思いが、「めっける(見つける)」という言葉から読み取れます(↓エ)。ウは、「よい性質を伸ばしていく」という部分が、「いい姿をめっける」という徳造の言葉をなじみません。